

村松榮子さんは、夫の春喜さんと二人暮らし。

6〜7年前から糖尿病が悪化し、認知症の症状が出てきました。

熊本市に行くつもりが、阿蘇に

以前、夫が夜に車で熊本市に向かったのですが、熊本市には行かずに阿蘇市の赤水駅に行っていたことがあったんです。親戚から「まだ来ない」と電話がかかってきたので、それが分かったんです。心配していたけど、帰ってきたので「よう帰ってきたね」と言ったことを覚えています。夫が「車から降りたら赤水だったよ。なんか知らんばってん、えらい着かん」と思ったら赤水駅だった」と言っていました。そのときから症状は出ていたんでしょね。それからは、車に乗らないようにお願いしました。夫も乗ると言わなかったですね。

「しゃべらんと言葉忘れるぞー」

夫が、あまりしゃべらなくなつてから、もう5年程になります。ヘルパーさんが「返事せんよー」って言うのと、たまに「はい」と言うくらいでした。私が「言葉忘れるぞー」と言っても「ふーん」と言うだけ、一日中寝ています。私も何度も話しかけているんですが、すました顔をしているんですが、2、3ヵ月前でしたが、痰が詰まって苦しんでいるときに「生懸命出そうと思ってるけど出らんもん」と夫がしゃべったんです。久しぶりに声を聞くことができました。ヘルパーさんも驚いていましたね。

家でも介護はできる

夫は、介護保険の要介護5の認定を受けています。ケアマネジャーさんから教えてもらった介護用ベッドをレンタルしてからは、3年間寝たきりでも褥瘡(床ずれ)が無いんです。

でも、介護保険がなかったら私だけではとても介護はできないと思います。食事は私が作るんですが、ヘルパーさんに食べさせてもらってます。夕食は私が食べさせています。在宅でも介護はできると思いましたね。

人のやさしさが身に染みます

以前、私が腰が悪くまったく動けなくなり、トイレにも行けない状態になった時がありました。夫にご飯も食べさせられなくなり、ヘルパーさんに「ご飯食べさせとらんとよ」と電話をしたら、ヘルパーさんが「よかよかすぐ行くけんね」とすぐ来てくれてご飯を食べさせてくれました。またごみの日でも持っていく前に、近所の人が「おばちゃん持つて行つとくよ」と声を掛けてくれるんです。近所の人が、夫の介護のことを理解してくれているので、とてもありがたいと思います。

家に一緒に居ること

夫が施設に入ったら、私もいつも見に行くことはできません。やっぱり、一緒に居たいですね。子どもも居ないし、「かわいそうやなあ、憎まれん人やなあ」と思うから介護しています。週に一回働いていますが、働くことは、リフレッシュできますし、おかず代にもなりますしね(笑)。



このままずっと一緒に

自分の娘のように 自分の母親のように…

松本眞理子さんの家は、昔から農家をしています。

熊本市内から嫁いで来て、農業をしたこともない松本さんに義母である「ばあちゃん」はいろんなことを教えてくれました。

まさか自分の家庭で…

認知症に気がついたのは、顔つきが変わってきたときですね。それとあまり喋らなくなりました。社会的で、民謡も大好きだったし、まさかうちの「ばあちゃん」がそうなるとは思いませんでした。親戚も認知症の症状があると分らなかったですね。



ある夜、寝床を見たら…

大変なのは、「ばあちゃん」が夜起きて外に出ていってしまうことです。ある日、午後10時ごろ「ばあちゃん」の寝床を見たら居ない。家中、電気をつけて探し回りました。玄関を開けたら、真っ暗の向こう側から這うようにして帰ってきた。「なんしよつとな」と言うのと「なんしにいったかわからん」と言うんです。心配していたのでホッとしましたね。

目標の先には、元気がある

「ばあちゃん」は認知症ですが、生活の中で目的を持たせることはとても大切だと思っています。

日々をだらだらと生活するのではなく、「今度は何処に行くけん、頑張らんよ」と言つて、目的を持たせてあげることが良いと思つてい



分かることもある

生の声を聴くことで

認知症について

聴く

介護はきついもんじゃない

私は、介護する人に負担の無い介護はどうすれば良いのかと考えていました。そこで、ヘルパー2級の資格を40代の時に取得しました。介護する人は知識があった方が、本人にきつい思いをさせず、楽な方法で介護ができます。そして、介護保険があるからとても助かっています。家に手すりもつけることができたし、自分が忙しいときに、「ばあちゃん」がデイサービスを利用することができています。

親が居るか

ら、自分たちが居るんです。感謝の気持ちがあれば、介護はきついものとは思いません。親を介護しているのを(自分の)子が見ていれば、その子は、親を介護してくれていると思いますから。

いろんなことを教えてくれた「ばあちゃん」

うれしいことは、時々「ばあちゃん」が「むげめあわすんな(大変な目にあわせてるね)、ありがとだね」と言ってくれることです。その一言で疲れも吹っ飛びます。いろんなことを教えてくれましたが、教える側も、大変だったと思う。そういうことがあったので認知症になるのが「ばあちゃん」を見ていたい…と思います。「ばあちゃん」が私に言った「誰でもがしよることが、自分にできないことはないので、なんでも勉強だけん」という言葉が、今でも心に残りそれが私の支えになっています。